

平成9年度

北海道高等学校教育研究会

会 報

第 68 号

ご あ い さ つ

北海道高等学校教育研究会

会 長 武 田 泰 明

エルニーニョ現象の影響とやらで、暖冬・少雪と思いきや、年末からは厳しい寒さと決して少なくはない降雪に見舞われたこの冬でしたが、ようやく春の兆しが感じられるようになりました。会員の皆様には、年度末を迎え、何かとご多忙のことと存じます。

さて、本研究会の本年度の事業につきましては、十分な成果を得て、計画通り終了することができました。会員の皆様方の積極的なご参加と、運営にご尽力いただいた事務局と関係者の方々、そしてご理解とご支援を頂いた関係機関・団体のお力によるものと心から感謝申し上げます。

「高教研と共に本格的な冬がくる」とあちらこちらで挨拶言葉に使われるほど、例年、大会当日は不思議なほど悪天候になりますが、第35回大会が開催された1月7日、8日も寒波と猛吹雪に襲われ、高速道路も何ヶ所か寸断されました。そんな悪条件のなかでの開催でしたが、最終的には2932名の方々の参加を得ました。「今〇〇にいるが通行止めで動けない。開通したら駆け付ける」という電話も何本かいただき、事務局一同、その熱意に感動した次第です。

『百年前、人間の理性を信じる人々は二十世紀の世界を楽観していた。技術は更に進歩し、暮らしは向上し、政治もよい方向へ向かうだろう、と希望的に考えていた。二度にわたる破壊的な戦争など、想像もしなかったのである。……爆発する地球の人口、枯渇する資源と食料、悪化する環境、そして、民族や宗教に根ざす対立の激化……。進歩への信頼は閉塞感と不安にとって代われ、だれ一人として明かるい世紀像を描くことができない。英知を働かせて最適のシステムをつくりあげない限り、人間という種の全体生存が危うくなりかねないのだ。』

これは元旦のある新聞の社説の書き出しの部分ですが、このことは、今や多くの人が抱いている重くて奥深い危機感ではないでしょうか。そんな今、自分は何をなすべきなのか、余りにも対象が大きすぎて戸惑うばかりです。しかし、誰もが思いやり、労りの心を持ち、正しい判断力を身に付けるようになれば、それらの集合体は大きな力になる。そして、それが私達の環境をも変えていくんだと信じて日頃の教育活動に取り組んでいきたいものだと思います。そのためにも、誰もが思っていることではありますが、私達一人ひとりが幅広い教養と豊かな感性を身につけ、確固とした指導力を身につけるべく常に努力を忘れてはならないと、新年度を前に気持ちを新たにしたいものです。

第34回研究大会の報告

開 会 式

(1) 開 会 の 辞

(2) 挨拶

北海道高等学校教育研究会 会 長 武田 泰明

北海道高等学校長協会 会 長 橋場 昇

(3) 来 賓 祝 辞

北海道教育委員会 教育長 南原 一晴 様

札幌市教育委員会 教育長 千葉 瑞穂 様

(4) 来賓・顧問紹介

(5) 閉 会 の 辞

日程第一日・全体集会

全体講演・午前の部

〔講演要旨〕

「国際化と私たちの暮らし」

神戸市外国語大学教授 浅井 信雄 氏

— 規制緩和の方向が良いとは限らない —

会社の倒産も多く見られ、現在は先行き不透明な安心・安全が保証されない時代である。日本人は契約社会の厳しさを認識する必要がある。規制緩和の方向に日本は進んでいるが、アクセルとブレーキのバランスが大切である。一方で株式の空売りを防ぐため、規制を強化しようとする動きもある。それはそれでよいのではないか。アメリカで「政府は規制緩和の名のもとに監視を怠っている」という記事が新聞に書かれたが、規制緩和は100%善ではない。また、緩和の方向に進んだことで、アジアの経済はおかしくなってきたとも言える。インドネシアなどでは、経済不安が社会・政治不安へととなりつつある。完全に自由化していない中国では、今のところ金融不安はない。すべてを市場の原理にまかせることは良いこととは限らない。ルールを作るのは結局人間であり、根本のところをしっかりと押さえることが大切である。

国際政治というものは、国益で動いているものである。共同声明や文書はよく読まなければ、わからないのにわかった気持ちになってしまう。これが国家間の誤解につながる。

国際化とは身近な問題である。例えば、京都国際会議の結論は、一口で言うと「省エネに努めましょう」だが、電気をどんどん使い、効率・便利・快適をとるか、環境をとるかの問題となる。

— 国際化を考える上での注意 —

国際交流とは、お互いの共通点と相違点を理解し合い、共生の道を探ることであるが、国際化を考える上でいくつかの注意すべき点がある。

- (1) 諸外国の知識の絶対的な不足
- (2) 自分、自分の国中心に考える傾向
- (3) 多様な世界への認識のために視点移動
- (4) (国と国の関係を見る) 水平的な視点と (政治の歴史を学ぶ) 垂直的視点が必要
- (5) 単純化してステレオタイプにならない
- (6) 結果にこだわるのではなく、原因を考え、総合的にみる全体的評価の必要性



幅広い視野と教養から、国際情勢をわかりやすく解説される浅井講師

(7) 偏見・先入観は簡単にはなくなる

(8) イメージの力の大きさ。特にテレビ等の映像的イメージは、インパクトが強いため修正するのが大変で、危険性がある。

これらにあわせて、事実と解釈について一言したい。キューバ危機の解釈が、事実が明らかになったことで変わってきた。解釈はとても重要である。解釈がなければ事実も意味をもたない。

— これからの国際化、国際交流 —

ここ最近、日本中心の考えから、日本の問題を世界の中で考える視点を持って、解釈・解決しようとする方向に進んできた。これからは、世界(人類)の問題を世界(人類)の視点で考えて解決していくことが必要であろう。

同様に、国際交流も、外国からものを取り入れる・まねすることから、人間的交流へ進んできている。これからは、世界の問題に対して日本人が人類に共通する解答を見つける能力を身に付けていくことが必要である。

すなわち「もの」と「人」が「国際舞台」で有機的に共生していくことである。

全体講演・午後の部

〔講演要旨〕

「カウンセリングを体験してみませんか」

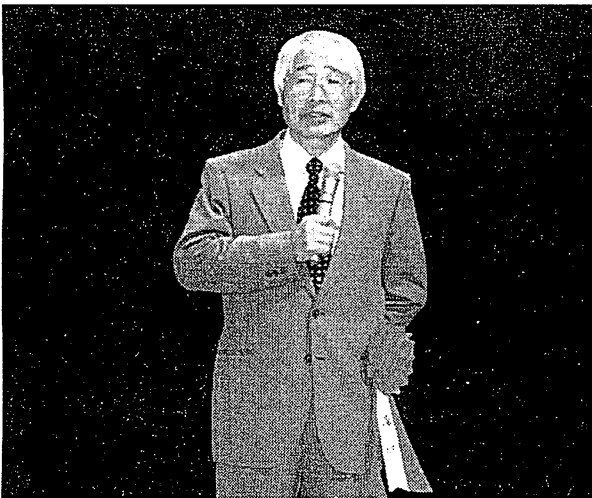
～やって・見て・話し合っで触れるカウンセリング～

北海学園北見大学助教授 中野 武房 氏

～やって触れる～ カウンセリングの基礎体験～

まず、座席の隣の方と雑談を3分間位行ってください。コミュニケーションの大切さとともに、雑談とカウンセリングの違いを考えてみると、カウンセリングの大切な点として、傾聴、共感的理解、秘密の保持、沈黙の時間を大切に、そして質問を極力抑える等のことがある。教育相談においては、相談者がこころを開くためにこれらは密接な関係がある。

次に、傾聴体験を隣の方と役割を分担し、交互に3分間ずつ実施してください。3分間聴き続けることはどうですか。時間のない時でも、生徒の思いを3分間でも聴いてあげて欲しいものです。傾聴の態度として表情・うなずきなどの身体言語や声の調子（トーン）などがある。相手への関心が強く、集中し、出合いを大切にする気持ちがあることが求められる。

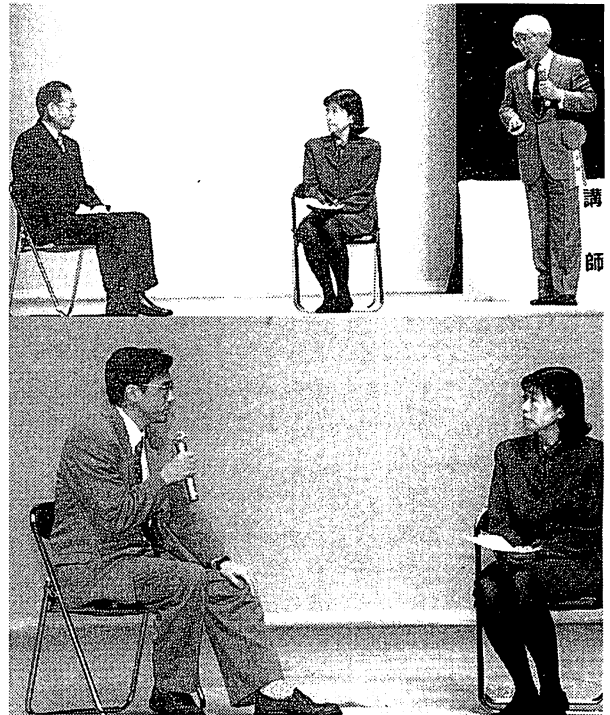


丁寧なレジメに基づき、カウンセリングを身近かに解説される中野講師

技術が身に付いて、教育相談がスムーズに行われることが大切である。その技術として「受容」「繰り返し」「沈黙」「要約（疑問文で要約して返す）」「明確化（相手の感情に即したことばで返す）」「質問・リード（ことばを変えて、投げ返す）」などがある。

～見て触れる～ ロールプレイング（役割演技）～

母親が高校一年男子の登校拒否のことで相談、学級担任が対応する。最初に、教育相談の手法を取り入れたプレイ。次に「短期療法」の考えをふまえたプレイを実施。先生役、母親役を演じた側の感想を述べ合い、第三者としての観客の感想を出して、相手の気持ち、演者の気持ちを体験して気付きを深めていくのがロールプレイング（役割演技）の基本である。



迫真な演技で教育相談のあり方を垣間見せるロールプレイング

母親のつらい気持ちを受け止め、親の心理過程を洞察して、親自身が子供とともに考えて問題解決の方向に歩み出す支援が教師に求められている。それには時間のかかる場合もあるが、相談者が納得できる結論を、相談者の気付きと主体的意思で生み出せることが大切である。

～教師の役割～ まとめにかえて～

教師の役割性格（教える、注入、形式、道徳などの傾向）を自覚し、何でも教えるという姿勢でなく、自己のふりかえりの時間を毎日持ってみたい。ゆっくり、じっくり、ゆとりある生活を教師は持つ必要があるのではないかと。生徒の精神衛生は教師の精神衛生から。

日程第二日・教科別集会

国語部会

〔講演要旨〕

「読むことと書くこと」

作家 黒井 千次 氏

銀座を歩いて、ふと違和感を覚えた、「21世紀まで、あと〇〇〇日」、オリンピックまで、あと〇〇日」、…。『逆算の感覚』という小説を書いた。それが高校の教科書に採用され、その授業を見る機会を得た。先生も生徒も緊張して大変でした。後で頂いた生徒の感想に、「自分の感想・感情は他の誰にも触れさせない。」というのがあった。文章を書くとは、文章を読むとは、いったいどういうことなのか。

「書く」とは「書いてしまった」ということ。非常な重みがあり、逃れられない立場に自分を置くということである。しかも、それが、そのまま読み手に伝わるかどうかはわからないのである。そんな中で、小説は第三人称の形で書く文章であり、嘘であり、無駄でもある。しかし、その嘘・無駄は現実によって支えられており、嘘・無駄の中に真実があるのである。

「読む」とは「わかった限りで読む」ということである。言い換えれば、不明なところがあるということ为前提にして読むということである。だから、何年かたって再読したときに、新たな発見があったり、印象が違ってくるのである。

「書く」とこと「読む」ことのあいだにはギャップがあり、そのギャップを通してドラマが生まれる。そして、それをどのように発展させていくのかということが読むことの重要な部分である。

〔研究発表〕

単語家族による漢字授業書

砂川北 辰川 英俊

漢字の音符を整理分類し、単語家族論に基づいた漢字授業書の編集・使用についての研究発表。

市販の漢字テキストは多種多様であるが、単なる機械的ドリルの繰り返しで、漢字を表意文字として生徒に定着させるには、その構成に系統性がない、という立場から、生徒の実態に即した定着をはかるために「解字編・意味編・書き取り編」の三部構成を持つ授業書を研究された。

勤務校の生徒の実情に応じて到達目標を弾力的に設定しつつ、「読むこと・漢字の意味・書くこと」のバランスを考えた授業書を使用し、漢字を集中的に取り立て指導することにより、生徒が動いた。

生徒の興味・関心を喚起する授業を目指して

～古典読解に関わる一試行～

豊富 遠藤 史子

生徒が興味・関心を持って主体的に学習に取り組むために、生徒自身が主人公の心情に迫り、さらに登場人物の様々な感情を推測するなどして自分の言葉で古典を実感するこ

とを目標とした授業の実践発表。

文法嫌いの生徒が多く、「古典は暗記するもの」という認識の生徒に対し、基礎基本の事柄を定着させつつ、古典に対する抵抗感を取り除き、自分で発見・感動する力を養成するための、教材やプリント、生徒の作業など様々な工夫。

古典に対する興味・関心を高める授業を目指して

札幌西 東谷 一彦

生徒が学習参加意識を高めながら生徒自身に考えさせることを目標とした授業実践。

進学校において、大学入試の厚い壁を現実問題として無視できないが、そのために授業が単なる教師の知識を与える場、暗記を強いる場となってはいけない、という観点から「教えること」ばかりではなく、生徒自身が声を出して読んだり、主体的に考え、類推する、といった活動の場を一時間の授業の中で必ず設定している。

生徒の主体的取り組み—考えさせる授業—を目指して『一教材一冒険』の提案。

地歴・公民部会

世界史

〔講演要旨〕

「世界史と日本史の可能性」

東京大学大学院総合文化研究科

教養学部教授 山内 昌之 氏

世界史の学習の中に日本史を交えながら語らなくては生徒に歴史を理解されない。その意味では日本史の勉強が大きなファクターとなる。

このことで大切な指摘となるのは、第一に江戸時代に荻生徂徠の「学問は歴史に極まれり候ことに候」の言葉であり、歴史学を事実として捉えたランケに共通する指摘である。また、第二に宮崎市定の「歴史学というものは本来、世界史たるべきものである」という指摘である。例えば西欧史のみで世界史をすべて勉強したというようなヨーロッパ中心主義であってはいけないのである。

次に、資本主義の産業経済は“近代性”と同時に“領土的支配”を生んだのであり、西洋史を学ぶにはこの“近代資本主義の二面性”を見るということも重要である。西洋のアフリカ・アジア・アメリカへの進出は、産業の近代性と共に植民地の獲得までも思想的に正当化した結果であり、19世紀フランスのトクヴィルやロッシュの行動はその現れである。この意味において、彼らの言う民主主義とは、西洋の者たちから見たものであり、イスラムやアジアの人々の目には自由として映らなかつたのである。また、高杉晋作・井上馨らが攘夷から開国へと変化したのも、福沢諭吉の『脱亜論』も、経済性と侵略という二面性をみていたことの現れである。

このようなことから、歴史は“二面性”を持ったものであるという認識のもとに理解する必要があると思うのである。

〔研究発表〕

「世界史における生徒の主体的な学習を促す

学習指導の工夫」

浦河 後藤 亜聡

世界史を教える時、陥り易いのは講義一辺倒の授業である。そこに生徒の主体性はなく、考える必要のない授業になりがちだ。

そこでまず最初に年間学習指導計画をしっかりと立てる。そして授業毎にたくさんの疑問を抱かせるポイントを作る。生徒は疑問を解くために考え、授業に参加するようになる。

さらに考察した結果を評価することも大切である。方法については授業毎にその都度評価をすることが望ましい。また一番成績に結びつく考査での評価も大切である。その際全担当教員の意識改革も忘れてはならない。

「生徒が興味を抱く授業づくりの工夫について」

土別東 矢部 和弘

私はかつて自分自身が体験したように、世界史への興味づけができないものかと考えた。その際最も重要視したのは、生徒達が“学習していて楽しい”という観点である。この点を中心に「授業づくり」の工夫を重ねてきた。

以下の3項目は、その中心をなすものである。

1. 絵画資料利用の工夫（レオナルド＝ダ＝ヴィンチの「最後の晩餐」など）
2. ビデオ利用の工夫（「ブレイブ＝ハート」）
3. 作業学習の導入（パピルスを用いた紙の製作や、世界史ニュース番組の制作など）

日 本 史

〔講演要旨〕

近現代日本の選択肢

— 大国主義と小国主義 —

札幌学院大学経済学部教授 田中 彰 氏

これまでの歴史学は現実に展開していった事実だけを扱っていたが、それぞれの時点で選択肢があったことを考えながら近代を見ていきたい。明治の国家形成の段階では、これからの日本が大国主義でいくのか、小国主義でいくのかという選択肢が存在したことは間違いのないことである。例えば『米欧回覧実記』を見ると、岩倉使節団の関心が必ずしも大国にのみあるのではなく、小国に対する比重も高くこれを無視していないことがわかる。また自由民権運動の理論的指導者の中江兆民は小国主義を主張している。だが小国主義は、大国主義を採用した明治国家によって押さえ込まれたために伏流化していった。そして再び小国主義の選択肢を示したのは大正デモクラシーにおける、三浦鏡太郎の小日本主義や石橋湛山の植民地放棄論であるが、昭和の軍国主義がその後台頭する。戦後、小国主義は日本国憲法にあらわれる。現行憲法はGHQによる押し付けだという考えがあるが、植木枝盛の日本国憲法との類似性に着目すると、明治国家や軍国主義によって押さえ込まれてきた小国主義が、GHQによって見出されたという

ことが言える。GHQに植木の草案の存在を知らせることになったのは、憲法研究会の憲法草稿要綱である。これは植木を研究していた民間の憲法史家が書いたことが知られており、またGHQがこれに着目したこともわかっている。こうして戦後は小国主義によって日本は経済大国となっていった。

〔研究発表〕

空知地方の開拓（開発）功労者は誰か

— アイヌ・囚人・タコ労働者・朝鮮人と

中国人・娼妓の足跡を追う —

岩見沢西 杉山 四郎

空知地方は市が多く、全部で10あるが、そのすべてが何らかの形で石炭産業によってできた都市である。北海道は明治に入ってから採炭をはじめとする本格的な開拓が始まったが、その開拓者のいわば底辺として支えていた人々が、アイヌ・囚人・タコ労働者・朝鮮人と中国人・娼妓たちであった。アイヌの人々は先住者であり、開拓者が北海道で生きるための様々な知識を彼らから得たのにもかかわらず、山奥の「アイヌ地」へ強制移住させられた。月形の樺戸集治監や三笠の空知集治監に収監された囚人たちやタコ労働者たちは、道路開削・炭鉱開発などに使役された。特にタコ労働者は囚人に代わって北海灌漑溝の開削や室蘭線鉄道敷設工事、夕張道路開削工事など苛酷な作業において使役されて、多数の犠牲者を出すに到った。また朝鮮人・中国人に至っても、万字・夕張などで厳しい条件のもとで強制的に連行されて石炭を採掘していた。特に大夕張で使役された中国人の5分の1強が酷い労働条件下で命を落としたのである。このような悪条件のもとで働いていた彼らであるが、彼らを称えた碑は少ない。また開発の名のもとに公認された遊廓の娼妓たちの存在もクローズアップされていない。彼らの言葉で表せない苦勞と犠牲のもとで空知が発展したという事実を顧みると憤りを感じる。このような歴史の上に現在の空知があることを胸に刻まなければならない。

地 理

〔講演要旨〕

国際協力と日本のODAの現状について

国際協力事業団北海道国際センター札幌

所長 長島 俊一 氏

「国際理解」が叫ばれ、外国の事ばかりを考えがちだが、まず大切なことは自国の事を理解することが第一である。また戦後、様々な意味で「国旗国歌」についてタブー視されてきたが、日本の外へ一歩出れば国旗国歌に対する敬意を払って当たり前であるし、持たないことは考えられないことである。現在日本のODAへの税からの支出は1人1万円の計算となる。その用途をきちんと確認すべきだし、知るべきである。日本の経済が疲弊している時になぜ対外援助かと言われるのが国家的信用、平和的貢献、食糧安全保障の点からも必要であり国際援助がなければ、日本自身が生きられないであろう。協力隊の事業については北海道の応

募者数は非常に多く、開拓精神の強さを感じる。今後もその気持ちを無にすることなく国際協力に尽力したい。

〔研究発表〕

「わかる授業の創造を目指して」

野幌 吉岡 剛孝

目の前にしている生徒が、義務教育を通じてどのような学力を培ってきたのか、それを認識しないと、わかる授業は展開できない。この観点から、解決の手順をさぐってみた。

学習指導要領を比較してみると、高校は中学校の「基礎」に立脚し、より深化させることが求められている。高校には「基礎」という文字がない。このことから近郊の中学校社会科教諭にアンケート調査をしたり、生徒が使っていた中学社会教科書やノートも参照した。わかってきたことは、知識定着重視型がやはり多いということである。

「この授業は面白い」とか「わかる」と思わせるためには、知識中心を脱却し、必ずしも覚えていなくても解答できるような問題や資料読み取り能力を試す出題、色塗りやVTRの活用など作業学習を取り入れることも、本来の地理教育のねらいと合致しない部分もあるが、方策ではないか。

地理授業とパソコンの活用

一池田の「ワイン産業」と気候シュミレーションから、
気候学習の重要性を認識する一

池田 篠原 行雄

授業づくりにかかる先生の熱意が感じられる研究発表で、論点は大きく次の2点で構成されている。

1. 地球との関わりをもった授業づくり

気候、ハイサーグラフの学習に、地域おこしの代表たる池田のワイン産業を結びつけ、地域振興と人々の努力の跡を考察させている。「地域を豊かにするのは人である」という人材育成の観点が池田町を発展に導いたことは、今の地域を支える若い高校生にも必要であると指摘している。

2. コンピュータを使用した授業づくり

パソコン経験の乏しい生徒達を対象に、自作ソフトによる、ハイサーグラフ、産業別人口構成等のシュミレーション等の他、インターネットによる気象衛星ひまわり等の画像を授業者の立場で紹介された。多くの問題を抱えるインターネットだからこそ、正面から取り上げる必要性を示唆されている。

現代社会

〔講演要旨〕

「21世紀に向けての政治課題」

北海道大学法学部教授 山口 二郎 氏

英国の小選挙区選挙をつぶさに観察して、いかに我々が「本当の小選挙区制」を理解していないかを痛感した。英国での小選挙区選挙は、徹底して政党主体の選挙であり有権者に訴えるのは、国全体に関わる「policy（政策）」である。日本のような地元への利益還元のための「wish list（願望の羅列）」ではない。「国会議員」は地域の細かい問

題に口を挟まないという原則を貫いている。市民にとっても、選挙というものは地元の利益を得るためのものではなく、自分自身の政策上の主義を通すために参加するイベントだという意識がある。また保守党も労働党も政策をセットで論じ、有権者に対してこれはできるが代わりにこちらは我慢を、と明確に説明する。有権者は支持政党の政策に一部不満があっても柔軟に対応し、その結果死票が出にくい選挙となり、小選挙区制はうまく機能している。野党は常に現実的な政策を用意し、政権交代の場合も迅速な政策遂行が可能である。我が国における連立政権の誕生は、55年体制を打破するなど一定の役割を果たしたが、政治改革は制度自体の改革に終始してしまった。利益誘導型の政治は変化せず、与党でなければ政党を維持しにくいのが現状である。政策よりも次の選挙に勝つことが最重要課題となり、それは官僚の権限強化にもつながっている。争点が決まれば投票率は上昇することは証明されている。新たな有権者の市場を掘り起こすような「覚悟」とリーダーシップを持った政治家が待望される。

〔研究発表〕

学ぶことが喜びとなる授業を

上士幌 山本 政俊

授業のVTRを使い日本国憲法の平和主義について出席者が追体験するという形で行われた。実物、絵、図等、教具の総称としての「モノ」を教室に持ちこもう」ということで様々な工夫をしているが、今回の「モノ」は憲法前文を歌にしたCDである。これを聞かせ教科書の該当ページを当てさせた。また発問に対する答を3分間でノートに書かせ、机間巡視時に内容を確認し発言者を決める。三択問題では他の生徒の答を参考にさせないようにグー・チョキ・パーを挙手させるなどの工夫をしている。また恵庭事件ではその概要を伝え自分が当事者ならば、裁判官ならばどうするか等、出来事がより身近に感じられる発問の工夫も行っている。導入・発問・モノを工夫することにより、学ぶことが喜びとなるような授業を心がけている。

生命倫理及び宗教に関する指導について

釧路北陽 村山 暢樹

倫理の授業では、先哲の思想を肌で実感し、それらが現代社会に生きる我々と無関係ではないことを理解できるように指導に努めている。

生命倫理の指導では、様々な生命観について学習したあと、脳死や臓器移植の問題に触れ、資料を使い時代的背景を説明し、科学と人間のかかわりについて深く考えさせた。生命の尊さを考えるため使用したマザーテレサの生き方は、生徒に多くの共感を得、周囲の人々の存在についても考えを広めさせることができた。宗教の学習では多様な角度から考察し、偏見を無くすことに努めた。特に「信じる」ことの作用については、生徒が多くの意見を持つことができた。特定の宗教を信じるのではなくとも、なにかしら信じている自分を発見させ、柔軟な視点でアプローチさせたい。

〔講演要旨〕

「カントの倫理学」

北海道大学名誉教授 宇都宮 芳 明 氏

かつてのドイツの国際都市ケーニヒスベルクで生まれたカントは、非常にインターナショナルな思想を持った人だった。哲学者は生き方に、その人の思想を説く鍵が隠されている。カントは規則正しい生活を送る社交的な人だったが、道徳的友情を理念としていたので、入魂な親友を生涯持つことはなかった。

カントは『教育学』の中で教育学の原理を「子供達は人類の将来可能なよりよい状態に相応しく教育されるべきもの」として、子供の教育の方法を「保育」「訓練」「開化」「文明化」「道徳化」に分け、5つの段階を経て人間として完成されるべきものと説いた。そして、教育の最大の問題の1つは「法則的な強制に従うこと」と「自分の自由を使用する能力」をいかに結合できるかにあるとした。外的な価値である礼儀や作法は、市民として社会の中で生きるために必要なものであるが、「文明化」を最終段階に置くことと墜落が始まる。歴史の発展段階も同様であり、我々は「開化」と「文明化」の時代に生きているが、「道徳化」の時代にはまだ至ってはいない。

人間は最終的に内的な価値に基づいて「道徳化」されることによって、市民を超えた世界市民としての人類に関する価値を獲得することができるし、「人間の善使命に相応しい存在になる」とカントは主張している。

〔研究発表〕

「家族を“考える”授業の試み」

札幌啓北商業 小野 容明

「家族」という存在は、今後の社会でさらに重要な意義を持つと考えられる。大きな変動の過程にあって議論の錯綜する内容だが、生徒の現在から将来に関係する重要な事柄である。

授業の方向として、生徒が自身の在り方生き方を感じつつ、考えられるような構成にすることを常に留意した。導入では現実に即した生徒の考えやすものをとりあげ、展開では発表・討論の形式で生徒の意見を出来るだけ尊重するように心掛けた。

内容は、今後の家族の動向や様相を考えることに絞った。それらの行方を考える上でポイントとなる事象として、①少子化の進行、②家族の性別役割分担意識、③社会政策と家族の在り方、を選び、現代の経済社会・社会政策との関わりを重視しながら授業を展開した。

生徒の感想から、今回の自由な意見・見解を尊重した形の授業方法は、概ね良い評価を受けた。また、結論が確定しない現在進行形のテーマを扱ったことも、生徒の意見を引き出すことにつながったと感じている。

あわせて、近年の家族論議の状況と社会学の家族論についての私見も報告しておく。

最後に、「家族」の授業は生徒の心に対する微妙な配慮が不可欠であり、これを扱う難しさを痛感したことを述べておきたい。

〔講演要旨〕

「現代国家を問い直す」

北海学園大学法学部教授法学部長 山本 左門 氏

変動期である現代国家を問い直すためには、今までの状況を反省するとともに、長期的な展望で考えていかなければならない。

現代の国家は「一民族一国家を前提として民族・地理的・生活的なもの」を「権力的な政府・国家権力機構」が「政治社会・人工的な秩序体」に分断している状況である。それら国家をフランスなどの「統一国家」、ドイツなどの「連邦国家」、EUなどの「国家連合」の形態に分類すると、日本は地方自治が認められているものの中央集権的色彩が強く、連邦国家には未だ及んでいない。

国家とは「政府」「領域」「国民」が絶えず変化し、特に国民は「国家」の変動によって民族の分断と併合が繰り返されている。今後は国家モデルを変換し、他国家との関係や地方自治体の活性化をめざすグローバリズムとローカリズムの同時進行（グローカリズム）が必要となる。

冷戦の解消が「国の片隅」という地位に押し込められていた辺境に「もう一つの玄関口」として可能性を開き、アジアの国々を「辺境」の視点から考えるべき時代がきている。日本人は国家を天然自然とし、人間の作った虚構、作為的なものとしての認識が薄い。日本は「一民族一国家」「中央集権国家」崇拜などを反省し、日本連邦（地方分権）への進行をめざすべきなど、変化する現代国家の中での日本のあるべき姿を示した。

〔研究発表〕

法教育カリキュラム導入の意義に関する研究

札幌厚別 木村 哲也

アメリカの法教育カリキュラム「Law in a Free Society Projekt」について、実践例の紹介がなされた後、この学習についての意義の説明が以下のようにされた。①理性的な討論を通じて紛争の平和的解決能力が育成できる。②問題解決の際の考慮すべき事柄、手続きといった「知的道具」が獲得できる。③立憲民主主義における基本的価値・手続き・原理についての理解が増進する。④グループ学習等を通じて責任ある個人としての社会参加の技能と態度が育成できる。⑤異文化の中で意志の疎通等、国際化時代に対応できる能力が育成できる。

政治・経済の「学力定着」に関する一考察

一新教育課程における必修政経（1年）と

選択政経（3年）の授業実践を通して一

帯広三条 釣井幸次郎

受験に通用し、同時に大学進学後の専門科目理解に必要な学力、また、社会人として主体的に判断する力を身につけさせるための「授業改善」に取り組んでいる。

必修の1年次では基礎・基本の定着を目指し、教科書準拠ノート作成や板書、生徒の反応、補助教材等に配慮する。選択の3年次では、大学の専門科目につながる「視点」を設定し、「基本的人権」を中心に、総合科目の性格を持た

せた授業を行う。また経済史・経済学、時事問題を扱うなど、進化、発展させた授業展開をしている。

数 学 部 会

〔講演要旨〕

考える数学、発見する数学

大阪大学大学院理学研究科教授 山本 芳彦 氏
何のために数学をするのか。これの答は一生かかっても見つけることは難しい。数学は役に立つか、数学ができると良いことがあるかなどの質問もあるが、まずは自問自答してみる必要がある。数学が出来るのは頭が良い、数学が得意なら理系である、問題集をやると好きになれるなどの誤解について考えたい。

道具としての数学とは、計算、量る・計る、数量の変化を考える、形状の把握、論理であり、日常生活の諸感覚で養われる事柄は、人に正確に伝える、計画的に実行する、出来ること出来ないことの区別、推測・診断などがある。さて、従来の数学の練習問題は、目標・範囲が決まっており、結果が明白で採点・順位がつけやすいことに重点がおかれ、これから脱却する必要がある。問題解決に向け要求される能力は、問題を見つけ、設定し解く、結論を問題に即して解くことである。また、数学には技術としての数学、科学言語としての数学、自然科学としての数学、教養としての数学がある。技術とは、事象を数学の問題として表す、裏づける計算力、シュミレーションであり、科学言語とは、色々な分野において概念を正確に表現し伝える数学の修得を行い、新しい概念を表す数学を見出すことである。自然科学とは、未解決問題の研究、実験数学（新事実・概念の発見導入、新分野の開拓）が成されている。

考える数学・発見する数学とは、ある課題から類似（似ている部分、異なる部分）を見出し、原因・しくみなど本質を見極め、更にわかるためには何をすればよいかを考え、解決に導くことである。教師が指導するとき「らくしよう」とするといけない。答が多様にある聞き方をして欲しい。理想であるが、ぜひ挑戦して欲しい。

〔研究発表〕

個に応じた指導を目指して

釧路北 石川 克志・伊藤 浩次

個に応じた指導を「習熟度別授業」「小人数授業」「オープンエンドの問題」の実践を通して、目指した。「習熟度別授業」を導入するにあたり、先進校への学校訪問、実践校の資料や学習指導要領の解説を読むなどの研修を教科内で行った。平成6年度入学生から実施し、昨春一期生が卒業したが、アンケートや模試、進路状況などを分析し長期的展望にたった評価・反省を行っている。「小人数授業」は、3年生の選択授業において行っている。「オープンエンドアプローチを用いた授業」展開は、習熟度別授業で細かく到達目標を設定しても個人差は必ず出る。ならばそれを積極的に利用しようと考えたものである。

授業実践の一例として、仮説実験ネタによるものを紹介。綿1kgと鉄1kg、全体と部分の重さなどを通して数学を新

しく取り上げてみたい。

数学B・Cにおける空間図形・軌跡の

学習指導はいかにあるべきか

～模型による効果的な教科指導及びその実践について～

根室 長谷川 貢

空間図形の扱いが困難な要因は、板書しても立体に見えない座標をどの様にとれば良いかが分かりにくいことにある。そこで「空間図形」を模型を見ることによって、問題のもっている基本的な性質を理解できると思われる。軌跡についても、道具や模型を利用すれば理解し易くなる。

具体例として、ペットボトルによる立体の交差の図形、直方体の角を切り取った図形、ペーパーの芯を利用した樹木の透き間から向こうの景色が見える模型、正方形の箱を利用したロープにつないだ牛の行動範囲の模型、クラッカーの輪切りの切り口の模型、だ円状の豆電球の影を利用した電球の下で読む本の陰の動きの模型の6例を紹介。

チーム・ティーチングの実践

～つまづきに気づき、できる喜びを

味わうことができる授業展開～

遠軽郁凌 高橋 宏明・川中 理樹

基礎学力の定着、一人ひとりに応じた指導の徹底、学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成、習熟度や学習ペースの違いに対応するために、チーム・ティーチング(T・T)を実施している。

複数教員によるもの、グループ別学習をとりいれたもの、習熟度をとりいれたものがある。それぞれに教師の役割分担や連けいがあり、毎時間の打ち合わせ・評価を次時につなげる。

T・Tを実施し、途中で投げ出さずに最後までやり抜こうと粘り強く取り組むようになった。また、「自分にもできる」といった自己効力感や自学自習の習慣を身につけるなどの効果があった。

理 科 部 会

〔講演要旨〕

世界の環境教育の流れと課題

21世紀教育研究所所長 筑波大学名誉教授

中山 和彦 氏

「環境教育」という言葉が最初に文献に登場したのはアメリカで1968年のことである。この言葉ができてまだ30年ほどしかたっていない。

アメリカには自然学習(nature study)、保全(conservation)、野外教育(outdoor education)という3つの伝統があり、そこに環境に対する人々の危機感が加わって環境教育ができあがった。1970年に制定された環境教育法では環境教育を「自然あるいは人工の、人のまわりをとりまく環境と人との関係を扱う教育プロセス」であると定義している。環境教育には「人」が必ず入ってくる。「人」なしの環境教育はあり得ない。これが環境教育の原点、中心である。この考えはベオグラード憲章をへてトビリシ環

境教育政府間会議に受け継がれている。

トビリシ会議では、環境教育の骨子を「認識」「知識」「態度」「技能」「関与」の5つのキーワードで表している。また、貧困自体を環境悪化のあらわれととらえ、開発の重要性を打ち出している。さらに「環境」(environment)は自然と文化遺産両方を含む言葉としてとらえられ、歴史遺産の保全も環境保全の中に含めている。

人間の生活の向上を第一に考え、そのためいかにうまく自然環境とつきあうかを教育するのが環境教育である。具体的に環境教育を展開する際にもこの視点が欠かせない。例えば熱帯林の保護を取り上げる場合、単に「木を切るな。」ではまずい。木を切らなくても、その土地の人たちに豊かな生活を保障するにはどうしたらいいかという視点がなければならぬ。

21世紀は「情報」「環境」「個性尊重」を軸に展開してゆくだろう。情報や個性尊重は環境教育に密接に関わりを持っている。

生徒が暗記ではなく、自ら考え、新しいものをつくり出す主体的な学習をしてゆく。主体的学習より環境学習を生涯継続する。それが環境を保全する行動につながってゆく。自分で調べたり、データを集めたり、ディベートしたりする主体的な学習を中心にすえない環境教育はあり得ない。環境学習を子供にやらせよう。郷土の身近なテーマを扱わせよう。興味を持たせよう。ふだんの授業から主体的学習をとりいれてほしい。

環境教育は、環境、自然保全、人口、国際理解、開発、平和、郷土教育など多くの内容を含んでいる。環境教育を1つの教科でカバーするのは無理がある。学校での取り組みの形態として理想的なのは「統合型」であろう。環境教育として学習する内容を各教科、各学年に貼りつけ、学校に環境教育コーディネーターをおいて統括するのである。

地域ごとの教材を創り上げよう。それをみんなが使えるようにしよう。そして生徒に環境論理を身につけさせ、環境とつきあうマナーを身につけさせよう。

物 理

【講演要旨】

不安定流れの物理

北海道大学大学院助教授 吉田 静男 氏

鉛直平面内で支点0からでた伸縮しない腕により回転できる振子の定常状態の安定性を考える。運動方程式を無次元化し定常解を得る。安定性解析の方法は、平衡状態からの摂動(わずかに揺すってみて元にもどれば安定)を利用して求める。摂動法は惑星の運動から量子力学までいろいろな場面に使え、流体力学にも応用できる。振子が2重、3重と複雑になると相当する式は連立方程式となり固有値方程式は行列式となる。この安定性解析の手法は、流体力学の分野では単純な流れの安定性、つまり、流れの乱流化の判定に応用され、様々な流れの安定性が考察されている。テイラーが解析した二重円筒間の流体の回転運動(テイラー渦)の安定性を解析する手順を示す。

(以下はMIIT製作の映像の紹介) クリームを水に一滴

落とすときにできるパターン、線香の煙に乱れ、蛇口からの細い水の流れが表面張力により乱れる。テイラー渦、密度の異なる2種類の液体の境界のようす、液体の表面に吹く風が起こる波、カルマン渦、ベナール対流、など。

【研究発表】

音源定位実験と光通信実験

札幌星園 杉山 剛英

両目の視差により人は立体的にもものを見ることができ。音の場合、両耳への音が到着するほんのわずかな時差により音源の方位を特定できる。これを、Y字型のゴム管の長さを変え、左右の耳への距離を異なるように生徒に体験させる。

紙コップの底に鏡を張りレーザー光を反射させる。反射光を太陽電池で受け取ると音が再生される。リモコンから赤外線と同様に受信。

ペットボトルロケットの教材化

池田 新井 繁

ペットボトルロケットの作り方を生徒に配付し班ごとに製作。作り方はあくまで基本的なものにとどめ、コックは意図的に教えず、生徒が試行錯誤の中で発見していくことを期待する。実際に、らせん形の羽根など予想しない発想をする生徒が現れた。製作、試射、レポートの説明合わせて4時間。次の1時間に飛行距離の記録会を実施。レポートでは法則へのまとめと理解を期待する。

物理Ⅱ課題研究におけるインターネットの活用

中標津 本谷 一

物理Ⅱの課題研究を3年生の11月に実施。課題の設定と解決のための資料収集にインターネットを利用。抵抗を考慮に入れた飛行物体の運動シミュレーションやペットボトルを空気溜めにしたホバークラフトなどの実践。研究の成果はそれぞれが発表する形にまとめて、ホームページに公開。J A V A アプレットを利用している生徒もいる。全体的によく取り組んでおり、情報発信(ホームページづくり)による教育効果は大きい。

化 学

【講演要旨】

生体内にみられる金属元素

—モデル化合物を通してその役割をみる—

北海道大学大学院理学研究科教授 佐々木陽一 氏

錯体化学は、金属を扱うという点で無機化学、配位子をつけるという点で有機化学である。とにかく、すべての元素を扱う化学である。

以前、 O_2 を取り込むC0の錯体を高校化学の教材として使えないかと研究したことがあった。

金属錯イオンが O_2 を取り込む例として、生物では、ヘモグロビンなどがある。人工的につくられたものでは、M0の錯体で、光を使い O_2 を自由自在に出し入れできるものがある。

錯体の構造は、単結晶 X線解析でわかる。数年前は、数ヶ月かかった作業も、今はコンピューターを使い短時間で済ませる。大学では、学生に各自単結晶を作らせ、構造を解析させている。この作業の中で化学の研究に対する興味を高めさせようと思っている。以前は、感激してくれた学生が多かったが、今は少なくなってきたように思える。

生物は、何種かの重金属元素を使っている。生体内の酵素のうち5～7割は、金属元素を含んでいる。多くは、何個かの複数の金属が集まって作用しているようだ。また、その金属の種類は、特定のものに限定されている。この元素組成は海水と似ており、生物が海で誕生したという証拠ともなる。一方で、化学者は生物が利用できなかった元素を自由に使える。これが化学の創造性につながっているのではないか。

現在、多電子移動系を研究している。分子が骨格を維持したまま多数の電子を出し入れするものである。Ruで11個の電子を出し入れする例などが確認されている。このとき、金属結合とは違う概念の金属間結合というものを考えている。

化学は、他の自然科学と性質が異なる。物理や生物は、どちらかという謎を解く学問である。それに対して、化学は新しい物質を作る創造の学問だと思う。化学者には創造性が大切だと、私は考えている。

〔研究発表〕

実験室に工場を

—ソルベー法の歴史的背景と実験室—

函館北 日向 稔

科学史を通しての興味付けを考えた。また、ソルベー法は多くの反応が組み合わさっており、大学入試でもねらわれる分野でもある。

教科書等で、種々の炭酸ナトリウムを作る方法が示されているが、生徒実験となると有効な方法が少ない。その中で、ドライアイスを使った方法は、分かりやすく簡単な方法といえる。

理科で何を伝えるか

—生徒指導の機能を生かした授業への取り組み—

滝上 北川 能貴

授業を通して問題解決の力をつけることを目的とした。ガイダンス的な内容として「食塩水と真水を見分ける」というテーマの授業を行っている。この授業では、生徒に正解を出すことを要求せず、各自の経験から見分ける方法を工夫し、検証することに主眼をおいた。しかし、生徒には正しい実験を行い、正しい結果がでることを望む者がおり、教師側のねがい通りにいかないのが現状である。

今もなお、理科で何を伝えるのか、答を探し続けているところである。

〔講演要旨〕

カムチャッカ半島の自然環境とその保全

北海道教育大学釧路校教授 神田 房行 氏

カムチャッカ半島には世界的に見て優れた自然環境が豊富に残されている。特に湿原は300万 ha という広大な面積が残されており、一部開発により破壊されてはいるが手つかずの状態である。しかしこの湿原に関する情報は少なく、生態学的調査はあまりなされていないのが現状である。

カムチャッカ半島の湿原はほとんどが高層湿原であり、下部には泥炭層が存在する。植物ではミズゴケを中心に様々な植物が生育し、セイヨウツツジ、ワタスゲ等も見られる。この地域に見られる植物には、クシロハナシノブのように北海道の北部（稚内方面）には見られず、道東に生育しているものがある。このことは北海道の植物がカムチャッカから伝わった可能性を示唆しているのかもしれない。

この半島には約800種以上の動植物の存在が確認され、高山植物においてはその9割が日本にも生育している。ユーラシア・アメリカ両大陸間の様々な要素が混ざり合った重要な地点であると言える。また、オホーツク海の漁資源に与える影響も大きい。

近年、日本人観光客が「エコツーリスト」としてこの半島を訪れることが多くなった。世界文化遺産に登録したいが、ロシアによる保全はほとんどなされておらず、我々も様々な方法でサポートする必要がある。

一方、釧路湿原には700種以上の植物が存在し、国により保全されている。森林はほとんどハンノキのみから成っており、湿原に生存できる理由を現在調査・研究中である。ハンノキの生育する環境が貧栄養環境であれば葉の寿命は長く、葉当たりの生産量は低いが、富栄養環境ではその逆である。

〔研究発表〕

コンブからの光合成色素の抽出法

小樽潮陵 廣原 誠

光合成色素の分離実験に際して、褐藻類コンブを材料にペーパークロマトグラフィー法の可能性を探ってみた。コンブの粉碎に「ミルサー」を用い、抽出液にはジエチルエーテルを用いる等の改良を重ねたところ、良好な分離結果を得られた。

北海道自生するマメ科植物ゲンゲ属

カラフトモメンツルとモメンツル

札幌星園 松井 洋

北海道に自生するマメ科植物ゲンゲ属は8種である。北海道のカラフトモメンツルおよびモメンツルの分布図を作成した。前者は網走支庁を中心とし、北海道東部ないし北部に偏って分布することがわかり、北方系植物であることが示唆された。また、前者は他の植物との競争を避けて生活しているようである。これに対して後者は被陰に対する競争にはやや強いと思われる。

地 学

〔講演要旨〕

「北海道を軸とし最近の地震活動と「新」プレート境界」
北海道大学地震予知観測地域センター長 笠原 稔 氏

5年前の1月15日に発生した1993年釧路沖地震は、日本列島にその後次々と起きる地震の始まりであったと現在では言うことができる。さらに、この釧路沖地震は、じつは地球的な大変動の次のサイクルの幕開けである可能性が指摘されている。

「地球」が1つのシステムとして(地震活動からみて)、どんな活動形態を示すかはまだよく分かっていない。過去に発生したすべての地震は1つのサイクルとして、1960年チリ地震を準備し、その後の変動を受け持ったにすぎないとみなすことができる。次のサイクルが釧路沖地震で始まり、つぎに「どこ」にその決着をつけようとしているのか？

最近5年間の北海道周辺の地震活動と地殻変動の観測結果から、この地域のプレート境界ならびにプレートと地震発生についての新たな知見(問題)が得られた。それは、日本海東縁のプレート境界は積丹沖から北海道内陸部へ入り、そこからサハリンまでつながる可能性を持つということである。

〔研究発表〕

「地域地震防災マップの作成をめざして」

一クラブ活動で取り組んだ地震震動調査と、その後—
遺愛女子 雁沢 夏子

同高地理学部では1989年から、7年間にわたって函館周辺における地震時の揺れかたについて調査してきた。調査方法は全校生徒を対象としたアンケート形式でデータを集め、パソコンを使って処理し地図にマッピングするという方法である。調査の過程では近隣の小、中、高校の協力が得られ、さらに詳しいマップの作成に大変役立った。この完成したマップをもとに地質や地形、震源の方向との関係を生徒とともに検討した。生徒達に、このようなクラブ活動を通して研究の楽しさを知ってもらおうと同時に今後は、このマップを防災マップとして役立てていきたい。

総 合 理 科

〔講演要旨〕

「環境教育の効果的指導について」

21世紀教育研究所所長 筑波大学名誉教授

中山 和彦 氏

総合理科は全国で3%足らずしか実施されていないが、全日制の受験校ではやることのできない本当の意味での理科教育ができるのではないか。実験も大道芸みたいな、マジックみたいなものでいいから、子供達がおもしろいと思ったものをすべきである。その子供達にとって教科として学ぶのは最後の機会であり、少なくとも理科的な物の見方や考え方、「不思議だ、そこで考えてみよう」という習慣をつくるのが大切である。

環境教育で一番大切なことの1つは、自分の住んでいる

所の環境、自然というものをよく知って、地域に根ざしたものを教材にすることである。それは理科だけではなく、社会や郷土史など広く取り入れてもいいのではないか。また、実施するための有効な方法は、学習者主体のES型教育である。子供達が自ら調べられるような環境を先生が整えてあげることにより、自分の考えで、責任をもって実行していく主体的な学習が可能である。それなしに規則として行えば、「何々すべからず、何々すべし」のような交通安全教育になってしまう。特に、環境の問題は考え方によっていろいろな答もあり得る。子供達が自分で考えて、どのような理由からきちんと結論が出せれば、それで良いのではないか。

環境教材としては、「環境家計簿」、「環境レンジャー活動」など北海道で成果をあげたものがある。これも、子供達が自分達の土地を知ってできたディベート学習であり、総合理科ではそのようなことが実践できると思われる。

〔研究発表〕

郷土の自然を題材にした総合理科の授業

一野付半島、知床半島を素材として

地域の博物館との協力を図った授業の展開例—

標津 金澤 裕司

昨年度から、総合理科で一年を通して「郷土の自然」をテーマにした授業に取り組み、生徒に物事を見抜く力をつけられるよう実践してきた。

- 1 実習・観察・調査—サケ学習など
- 2 講演—エゾオオカミ、シマフクロウについて

環境を考える教材的視点

一市の花、市の木を用いて—

岩見沢東 田邊 彰宏

環境教育教材 SAAP の「Plants in our Lives」を参考に、都道府県や市町村の花・木を通して環境を考え、大切にする意識を育てている。

栗山町継立でボーリング・コアを採取して晩氷期以降の環境変遷を探る

一博物館の展示を環境教育に取り入れるための研究

(その2) —

札幌 静修 星野 フサ、由仁商業 金川 和人

札幌国際情報 北澤 新、檜山北 日下 哉

岩見沢東 田邊 彰宏、札幌第一 萩原 法子

野 幌 吉田 哲、東 川 森谷 茂

身近な自然環境を通して、地球温暖化などの正しい観点をもって行動したり、協力できる人材の育成を目指している。

- 1 調査試料の教材化とテスト結果
- 2 継立・由仁・古山試料の対比と火山灰層の砂粒組成成分分析結果
- 3 継立の花粉分析結果
- 4 継立のボーリング・コアの映像報告

移行期の高校理科履修実態調査

札幌開成 鶴岡 森昭

高校の理科離れの実態を高校理科教科書需要数と高校生数に基づいて定量的に分析を試みた。

- 1 物理微減、化学・生物10%以上増、地学微増
- 2 北海道は全国に比べ、物理が7%低く、生物は11%以上増
- 3 小中学校では2002年の改訂に向けて、理科の時数が減少する

保健体育部会

〔講演要旨〕

「スポーツ障害の予防と体力強化」

日本体育大学教授 堀居 昭氏

日本のスポーツの多くは形にはじまり形に終るという観念が定着しており、スポーツ障害をおこす要因をもっている。とくに、静から動への過程で、リラックスすることなく、激しさ、スピードが求められることによって、体の各部位に疲労、痛みをもたらし、それが障害の微候になることを見逃している。

運動部の指導にあたる教師は、生徒に怪我をさせはならないことはもとより、正しい知識にもとづいて、運動処方が施さなければと思う。膝、腰、肩、腕は、運動によって障害が顕著に現われる部位である。その予防はそれらの部位を強化することによって可能である。

障害のメカニズムと強化方法は、スライドで説明されたが、ここでは省略する。

スポーツ障害からの回復は、休養による疲れと痛みを解消することが大切である。そのために患部への血流を良くすることである。

「怪我も才能も自分もち」であるが、教師は生徒の体調、能力を掌握することが、障害の防止と体力の強化につながるのである。

〔研究発表〕

「生涯を通してスポーツに親しむために」

～選択制体育と生涯スポーツの実践～

弟子屈 信清 昭人

生涯体育、スポーツを重視する選択制の実施の観点から体育を展開している。3年間を通じた学習は、必修種目（柔道、創作ダンス、陸上競技、器械体操）と選択種目（バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトボール）に分けて実施しているが、評価において、種目間における平均点の相違、相互評価の個人差、グループ差など、選択制体育の困難点を指摘した。

「自ら考え、自ら学ぶ保健授業の創造をめざして」

～地域に学ぶ環境教育の課題学習について～

新得 上棚 俊行

生徒を如何に授業に参加させるかのために課題学習に取り組んだ。生徒に「なぜ」を投げかける、そして調べさせて発表へと導く。その評価として、研究の完成度、研究発

表の態度・意欲、グループ全体の取り組み方・意欲、創意、工夫、独創性をあげている。課題学習のための時数不足は夏休みの課題としているが、テーマに要する時数は10時間である。指導過程では、教師には指導内容の精選が必要であり、結果として生徒は自分たちで問題を解決するという自発性が育っていく。発表者は、この課題学習を通じて生徒から多くのことを学んだと結んだ。

この二つの研究発表は、地域をほりおこすもので、各学校が選択制体育、保健の課題学習を実施するにあたって、多くの示唆を得ることができたことから、未実施の学校は地域、学校、生徒の実態をふまえて、出来るところから実践するのがよいのではないか。という助言を二人の助言者からいただいた。

養護部会

〔講演要旨〕

「養護教諭の新たな役割と求められている資質」

文部省体育局学校健康教育課教科調査官

併メンタルヘルス教育専門官 三木とみ子氏

平成9年9月22日、保健体育審議会答申が25年ぶりに出された。

《養護教諭の新たな役割》

近年の心の健康問題等の深刻化に伴い、学校におけるカウンセリング機能の充実が求められている。養護教諭の行うヘルスカウンセリング（養護教諭の職務の特質や保健室の機能を十分に生かし、心や体の両面への対応を行う健康相談活動）が、一層重要な役割を持ってきている。

《求められる資質》

「心の健康問題と身体症状」に関する知識、これらの観察の仕方や受け止め方についての確かな判断力、対応力（カウンセリング能力）、健康に関する現代的課題の解決のための情報の収集、健康問題をとらえる力量や解決のための指導力が必要である。平成7年度に保健主事にもなれる制度改正が行われたことに伴い、企画力、実行力、調整力を身に付けることが望まれる。

《資質の向上方策等》

養成課程、現職研修を含めた一貫した資質の向上方策を検討する必要がある。養成課程については、養護教諭の専門性を生かしたカウンセリング能力の向上を、質・量ともに抜本的に充実することを検討する必要がある。現職研修については、情報処理能力の育成、担当教諭とチームを組んだ教科指導や保健指導に関する実践的な指導力の向上、企画力、カウンセリング能力の向上など格段の充実を図る必要がある。養護教諭が新たな役割を担うことに伴い、従来の職務はもとより、新たな心身の健康問題にも適切に対応できるよう、養護教諭の複数配置について一層の促進を図ることが必要である。

子どもたちの心と体の健康の現状をよく見つめ、「養護教諭でなければ、養護教諭だからこそ」できる活動とは何かを、今、一人ひとりの養護教諭が自らの課題としてとらえ、実践に結びつけることが必要なことと考える。

〔提言・協議〕

養護教諭の専門性と教育活動

～日常の生徒とのかかわりをとおして～

養護部会事務局 大村 道子

「保健室登校」の生徒や、保健室利用者数が確実に増えてきており、保健室や養護教諭の役割を見直す動きも出てきている。日常の職務をとおして、生徒とどのようにかかわっていくことが望ましいのか、提言に基づき参加者の学校の実情や問題点について意見交換を行った。

芸術部会

〔講演要旨〕

「芸術と人生」

北海道文化財保護協会 亀岡 武氏

「賢に似て賢ならず、もの知りに似て何も知らず、世のまがひもの」とは、近世、人間性を追求し、演劇に新たな世界を切り拓いた近松門左衛門の言葉である。この近松の自己批判は、人間の生き方や芸術のあり方に、これでよいという限度のない奥深さのあることをよく表していると言えよう。芸術とは、美の創作と表現を言い、そして、美といえ、人間が一生懸命生きる姿は実に美しい。「芸に底なし」とも、「芸術は長く、人生は短い」などとも言われるが、生存中に創作意欲を燃やし、生の証しとして、芸術作品に永遠性を持たせることもできるのである。芸術の分野は多岐にわたるが、このように、人の生き方と深く関わっている以上、芸術は知育偏重や科学万能主義に対峙した、人間が心豊かに生きるという、人間形成で最も大切なもので精神性の極めて高いものであると思う。

ところで、わが体験を振り返った時、自らの心を育くみ、懐しく思い出されるものに、童謡があり、又、私の生の証として尺八との出会いがある。日本の童謡運動について触れると、これは、外国に見られない、日本固有のものがある。いろいろな動物や、自然がそこに歌い込まれている。その中で、命や、自然を思いやる心が自然と育まれてきたようにも思う。人格形成に一つの役割を果たす童謡が、だんだん歌われなくなってきたことや、自然や村行事が失われつつあることは、『心の教育』が言われ、少年犯罪が社会問題化している今日、注目すべきことがらと思う。

私の人生の節目にも、沢山の思い出がある。ここで、その幾つかを尺八という楽器を通して振り返ってみたい。

一以下尺八実演と思い出一（曲目）

○「春の海」、○「赤とんぼ」、○「赤い靴」、○「叱られて」、○「リンゴ追分」、○「岸壁の母」、○「新世界」より、○「江差追分」

〔研究発表〕

音楽分科会

函館市銭亀沢地区における民俗音楽（芸能）の芸能とその役割について

函館稜北 小林 敏雄

函館市銭亀沢地区には神楽・和讃類・雅楽・民謡・わらべ歌・替え歌・座敷芸等の民俗音楽（芸能）が伝承されて

いる。それらは口承伝承が中心であるので、伝承者とその関係者に聞き取り調査を行った。祭文や経文等を文字に、音楽は25例の採譜をして提示した。その上で他地区との関係を含め音楽（芸能）の社会的事象での役割と民俗音楽間の関係等も考察した。その結果、伝承者の権威で比較的变化しにくい芸能と伝承者の移動や死亡、社会の文化的状況の変化の影響を受けて変化しやすい芸能があると指摘した。変形も多数見られ、拍節が明確な音楽や5音階の音楽であるとの理解が困難な事例も報告された。この地区の芸能の多様性は、日本音楽の理解に接近する一例になる可能性を示唆しているとの考えを示した。

美術分科会

「戦争と平和」(私のメッセージ)ポスターに取り組んで」

釧路東 上野 秀実

芸術教科の中でも、とりわけ美術という教科指導を通じて何を生徒たちに学び取ってもらうかという問題は、われわれ美術教師の大きな課題である。「美術を教える」のではなく「美術で教える」ということをしっかりと認識しながら教材の設定や指導、評価を行わなくてはならないと思う。

今回、発表のテーマとした「戦争と平和」ポスターは、未来を担う生徒たちにあらためて平和の重みと戦争の愚かさ、悲惨さを自らの視点でとらえて表現することに重点を置き実践してきた。ともすれば技術的な側面ばかりに指導や評価のウェイトを置いてきた自分自身への戒めを込めて取り組んだこの授業では、生徒たちの豊かな感性に学ぶべき点が多く存在した。

今年度は見学旅行自主研修という形で全員ではないものの、かなりの数の生徒たち（9割強）が被爆地、広島へ行くことができることを受け、この教材を平和教育のひとつとしてとらえた事前研修をかねた授業として設定できたことが生徒が前向きに取り組むことへの追い風となった。

又、より多くの情報を生徒たちに提供する手段としてインターネットを利用し、客観的データをわかりやすくグラフィカルに提示できたことは、真の意味でのマルチメディア時代の到来を予感させるものでもあった。

さらに見学旅行後の生徒の完成レポートからは実際に広島まで足を運んでみて目の当たりにした戦争の事実からかなり影響を受けてきたことも、数多く報告された。これらのレポートにこの教材に取り組んだ意義が見えてきたように思う。

今、我々ができることの一つは、戦争という事実を生徒に少しでも多く伝え、少しでも考えを巡らす機会を増やすことではないだろうか。

書道分科会

書道Ⅱ 創作「看板文字」による

札幌真栄 桶谷 充

多くの教育現場で抱えている問題の一つとして学習意欲の欠如がある。このような生徒に対してはとすると教師主導で授業を進めがちである。したがって、書道においては古典の臨書の方が創作よりも指導しやすいようである。

しかし、意欲に欠ける生徒、書写の域を出ない生徒などに対して、逆に創作指導を通して、主体性や創造力などを養わせることこそ今日さかんに求められているものではないだろうか。このような視点から、古典の臨書の応用として創作を位置づけ、生徒にとって興味、関心・意欲を喚起するための手段として「看板文字」を書かせることにした。

日常生活における毛筆で書かれた看板の意識調査を導入として計11回の授業計画を作り、生徒にとって身近な「六花亭」や「やきとり多留摩」、「中国料理上海美食」などのお店の看板文字を題材とした。そして、文字の大小、線の太い細い、墨量の多い少ない、文字の形の変化、運筆のリズム・連綿という5つの表現技法を、それぞれの授業で的を絞って用いることによって、最終的にはお店の雰囲気表現できるように、主体的に工夫する授業となるようにした。

結果的に、生徒の看板に対するイメージと教師側の期待する看板文字との間にギャップがあり、また、範書を一切せず手本がないということの不安から極めて常識的なおとなしい看板文字になったり、逆に書道の範疇からややはずれるようなデザイン的な看板文字になったりした。一方授業の共通目標としてお店の雰囲気や商品のイメージを表現することを目指したが、このことから書風の概念の理解にはなかなか結びつかないということもわかった。しかしながら、臨書活動による秩序を指向する授業と違って、生徒の心を開放する創作活動は、心身と筆の一体感を得るきわめて創造的なおもしろさがある。この体験を是非生徒に味わわせたいとの願いを込めた授業であった。

今後の課題としては、主体的に学習するための生徒への支援のあり方、看板文字への関心や意欲の喚起のための導入の方法等について、更に研究してゆきたい。

英 語 部 会

〔講演要旨〕

世界各地の英語と我が国の英語教育

南山大学外国語学部教授 田中 春美 氏

近年、世界各地のさまざまな英語に対する関心が高まり、World Englishes という名の研究が行われている。英語は、英語を母国語とする ENL (English as a native language)、英語を第2言語とする ESL (English as a second language)、そして本国では英語を母国語とする必要のない EFL (English as a foreign language) の3つに分類されている。我が国の英語は EFL の中に含めることができる。

ENL に関して、従来からアメリカ英語・イギリス英語の発音、綴りの違いは辞書等に記載され、よく知られているところであるが、実際の調査研究によると明確には区別がつかない場合も見られる。また、イギリス英語にもさまざまな方言、語法上の違いが見られ、3単元の s の使用にも違いがある。正しく使用できることが望ましいのは言う

までもないが、コミュニケーションという立場からは、それほど神経質になる必要もないようである。

我が国の英語教育においては、現実の学校教育（授業時数の確保、native の教師の数、我々英語教師の能力）の問題、そして生徒にとって EFL の環境ということを考えてみるならば、native のような英語を身につけさせることを到達目標とすることは理想主義的であると言わざるを得ない。世界中の英語にはいろいろなものが存在している。いますぐそれらを教えていくことにはならないが、将来的にはそのような英語にも慣れさせる必要は生じてくるであろう。完璧主義は時には弊害となることもある。英語教師が時には気楽に自分の英語で教えることも大切である。

〔研究発表〕

「何ができれば文章を理解したと言えるか」

雄武 荻津 賢

文章理解で total response で日本語を介さないで英語の流れで体験する事を行い、英語をそのまま受け入れるように工夫した。体と心を動かすことで英語理解を図った。その1つの方法として英語の調理方法を自体験させたり、洋楽を教材として与え、興味・関心を呼び起こした。英語は四技能を発揮できることが目標であり、読み終えた内容に心を動かし、生きた人間が発したメッセージに生きた人間として反応する事である。

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成について」

滝上 高田 邦彦

自然な場面設定で自ら課題を発見し、解決することが重要である。英語ができないことがコミュニケーションができないことにはならない。実際の活動では英語の聞く力を伸ばすためにはたくさんの英語を聞かせること、英語を多用することが必要である。ALT との授業の中で教科書の内容についてコメントしてもらい、また ALT と英語のレシピを見ながら料理を作ることでコミュニケーションに興味を持ち始めた。知識や正確さだけを重視する活動から、コミュニケーション重視の活動への転換が必要と思われる。

「表現活動としての音声指導」

小樽工業 谷 昭憲

音声指導にあたり、①個々の単語の「正確な発音」にあまりこだわらない。②一文をできる限り一息で読めるようにする。③英語のリズムの心地よさを味あわせることで音読の楽しさを実感させる。④自分自身が音読を楽しむ。を留意し授業展開している。音声指導は、生徒の英語に対する学習意欲を喚起させつつ、日本語とは異なった英語特有のリズムやイントネーションを、音声として楽しみながら、それをどのように生徒自身の表現活動へ結びつけていくかが大切であると確信している。

家庭部会

〔講演要旨〕

「子どもの権利条件と子ども虐待

—発見と介入の手だて—

白梅学園短期大学保育科助教授 浅井 春夫 氏

子どもの権利に関して、家庭・家庭教育で実践していくには、視点の発想を変えなくてはいけない。少年犯罪が増加し凶悪化している。子ども達の感覚的感情、つまり五感を通して自分の感情が生み出される能力の衰退が共通して言える。大人社会の視点が子どもの感覚を鈍らせている。これからは次の3つの視点①伝統的な日本の家族観にとらわれない国際的な視野②21世紀を貫く人間の生き方③マイノリティー（少数）の人権で考えることが必要である。

子どもの権利条件の今日的な意義は、国際的条件として法的拘束力を持ち、世界の子どもの現状に即して具体的な権利が拡充・整備され、子どもの観の歴史的な転換が具体化されていることである。しかし、日本の子ども達はこの権利が狭められ、さらに過労児となっている。課題は、上位法として位置づけることから法改正が必要である。実践上では、権利保障実践の具体化が求められ、条約の内容を子どもの言葉に翻訳して伝えることが急務である。

虐待は最も子どもの人権が犯されている現象で、日本の現状数は、調査結果からはアメリカの200分の1である。しかし、潜在している数は多く、保母・教師・医師の虐待を発見する能力の低さにも原因がある。虐待を発見し、介入、ケアするシステムを作り、その一部として学校や教師の存在が必要となる。また、性的虐待も深刻で、特に加害者は性的支配により自信を取り戻すことが目的なため、対象はより幼い年齢を選ぶ。近親者や身近な知人が多いのも現実である。性教育も防止策というだけではなく、性的人権の視点から進めなくてはならない。

虐待は世代間のチェーン現象が起こっている。虐待をする親もまた虐待を受けた被害者であり、同時にケアする対象だということを認識しなければならない。虐待を受けた子どもが将来親となって虐待をしないようにするために、どのような教育実践、援助、ケアが必要かを考えなければならない。また、援助交際等は経済的な性的人権の侵害であるという本質をどう伝えるかなど、21世紀を生きたために何を高校生に伝えるべきか考える必要がある。

〔研究協議〕

主題「時代の変化に対応する家庭科教育の創造」

〔産業教育担当教員長期実技研修講座参加報告〕

美唄南 岩佐美和子

平成8年7月24日～8月17日の期間、文化服装専門学校において「服飾デザイン」の実技指導の研修を行った。技術研修会終了後、ファッションビジネス教育の指導法やCADの操作などを体験した。研修で得た教材や知識は生徒にも好評である。より多くの生徒に楽しさを伝えられるよう「被服」「家庭一般」でも行える教材作りが必要だと感じている。

〔研究発表〕

「時代の変化に対応する家庭科教育の実践

～幼児との「遊び」を通して親の役割を考えさせる

保育園実習の一例～

豊富 渋谷 麻子

家族や友達との人間関係の希薄さがますます社会問題化している今日、様々な体験を通して他を思いやる心を育てることや地域社会とのかかわりを深めていくことが求められている。このため「家庭一般」の保育分野で実践的・体験的学習の一つとして手作りおもちゃを用いた保育園実習を行っている。

2回の実習と保母さんによる講演を通して、生徒たちに「遊び」や集団保育の意義を理解させるとともに、親になる責任の重さを考えさせている。

今後は、生徒に地域社会に一層関心をもたせるために保育園との連携を深め「生きる力」を育成できるように実習内容を充実させることが課題である。

「工業高校における家庭科教育の実践」

富良野工業 小松 裕美

工業高校での教育は専門性を重視し、生産者の観点からの職業教育が主である。そこに生活者の観点から迫る家庭科の教科指導を加えることは、物事を多方面から見る姿勢を養う点で重要と思われる。そこで、他教科と連携し実験・実習指導を行い、1つの題材を生産者と消費者の立場で考察する授業を展開しようと考えた。同じ題材を異なった切り口で知識として取り組む時、理解がより深められ生きた学習となる。そのために実験内容を精選し、学習ノートも問題解決型のものを作成した。同時に学習ノートに書かれた各自の意見は、教材通信の発行を通してフィードバックしている。

農業部会

〔講演要旨〕

「農業の評価軸」

—環境問題は工業技術で解決できるか—

酪農学園大学酪農学部酪農学科畜管理学教室教授

農学博士 千場 信司 氏

1. 農業に対する評価の現状

1) 農業関係者の農業離れ：非農家子弟や低学力者が集まる農業高校、泥臭さを嫌っての改名や農業理解不足の研究が目立つ農業大学、経済効率を責められる農水省、外国先端技術の導入を考えているような農業改良普及センターと、農業の内外の人の農業忘れや理解不足の現状がある。2) 農業の評価はなぜ低い：生産技術やシステムを経済効率と言う評価軸でのみ評価してきた。3) 農業に対し高い評価をしているグループ：諸外国では農業従事に生き甲斐や誇りを持ち、職種としての位置付けも高い。裕福になったり、その道を極めた人も農業に戻る傾向があり、主婦も出産後から農業に関心を持つ。4) 農業が正当な評価を受けるには何が必要か：評価軸の多様化、農業論理の再確認と農業理解、そして環境と言う助っ人を生かすことが大切

である。

2. 評価軸の多様化

1) 新しい評価軸：経済効率は最重要評価軸であるが、化石エネルギー必要量による評価も必要である。2) 評価の事例：購入飼料型は自給飼料型の約2倍の化石エネルギーが必要であり、購入飼料の輸入を減らす必要がある。3) これからの評価軸：農業を正當に評価するには、縦・横軸にエネルギーと環境負荷を、高さ軸に収益を置く三次元的複合評価軸が必要である。さらに収益・エネルギー・環境負荷・社会性(家畜福祉)、幸福感などの多くの評価軸の上で適正なバランスを維持することが理想的な生産システムと言える。

3. 農業の理論の再確認

1) 工業の理論：工業は「地下資源→製品」と言う直線の流れで、生成廃物は捨てられ、時間的・空間的制約が極めて小さく、製品に付加価値を与え得る。2) 農業の論理：農業生産体系は「上→植物→動物(含人間)→土」と言う円の中で成り立ち、生成廃物は循環され、時間的・空間的制約が大となる。黒澤酉蔵は、物質循環とその循環に関わる気象、土壌、家畜、そして人間の役割の重要性を「循環農法図」で提唱し、樋田は熱学的に見て、生命・環境を含む開放形の持続は、発生するエントロピーの蓄積がない状態、つまり大気・水・養分の循環によって支えられると述べている。持続型農業の成立条件は、技術的には「循環」であり、科学的には「エントロピー理論」であり、そして理念的には「共生」である。近年の農業は、経済効率と言う単一の評価軸に偏り、循環系外からの購入飼料を用い、貴重な糞尿を非効率的として廃棄し、また科学技術が全てを解決すると考えて規模拡大をし、生産量と生産効率の増加を図って来た。その結果、環境破壊や公害など、問題を大きくして来た。これらの循環を確保するためには、土地も技術も必要であるが、土壌の持つ許容力の限界を見極め、その中で生産性を追求することにより持続型農業生産が可能となる。人間がすべきことは、この限界内で循環がスムーズになるための適切な手助けをすることであり、糞尿管理のみを問題視するのではなく、生産体系そのものを見直すことが大切である。

4. 環境と農業

1) 環境問題に対する関心の高まり：市民の発言、入試論文テーマ、環境システム学部などにも見られ、環境問題に対する関心が高まりつつある。

2) 公害と地球環境問題：原子力エネルギーは産出・廃棄に多くの化石エネルギーを必要とし、また工業製品のリサイクルも同様な場合がある。環境問題を工業技術で解決したつもりが次の問題を引き起こしている。化石エネルギーを使うアクティブシステムから、パッシブシステムに変わらなければならない。地球環境問題は農業の理論でこそ解決できる。

〈まとめ〉

1. 評価軸の多様化が必要である。
2. 環境問題の解決は農業論理にこそある。
3. 最高の教育は農業の基本を知って貰うこと。

〔研究発表〕

「新しい時代に向けた農業教育の使命の再発見と推進は
いかにあるべきか」

—農業高校における農業教育の現状と課題—

社 警 鎌田 一宏

昭和63年をピークに生徒数の減少期を迎え、その影響を受けた社警高校が学校の存続を危惧し、校内外で研究協議を重ねた結果、導入した「学科改編やコース制」についての展望を発表した。

1. 本町および学校の概要について

1) 農業と観光の町、2) 特色ある教育内容に関わる施設・設備の充実、3) 地域と学校の背景、

2. コース制導入における教育課程の編成

1) コース制導入の目的：従来の教育内容と地域ニーズの研究、および資格取得指導の充実を目指す。2) コース制導入に伴う農場の改革：野菜圃場・果樹園面積と作目の改革、地域との交流・連携の継続、3) 地域の教育人材の活用、4) 専門分野資格取得への指導充実と進路対策(有資格者の企業開拓の必要性)

3. 課題

1) 地域農業との連携、2) 農場集約化と効率の活用、3) 地域教育人材の活用、4) CADシステム活用、5) より高い専門分野を磨く教員研修。

「新しい時代にむけての農業教育の使命の再発見と

推進はいかにあるべきか」

—農業教育の変遷とこれからの北海道農業の在り方—

美幌農業 古屋 接雄

我が国の第3の教育改革の中で、農業教育の使命と北海道農業教育の在り方、およびその活性化について述べられた。

1. 21世紀に向けた農業教育の使命

1) 農業後継者の育成、2) 農業関連産業者の育成、3) 農業教育の裾野の拡大を使命とし「胃の糧」から「心の糧」まで広範囲になっている。

2. 北海道農業教育の在り方

1) 専門高校としての充実、2) 社会の変化に対応、3) 地域に開かれた農業高校、4) 多様な進路の確保、5) 農業教育と改良普及事業の一体化を上げた。

3. 北海道農業教育の活性化の方策

1) 北海道農業活性化の中での特色ある学校づくり、2) 教員の資質向上、3) 農政と農業教育の一体化、4) 地域に開かれた農業高校づくり。

すばらしい農業者の育成が農業振興に結びつき、国民一人一人に21世紀に適合した農業観をもたらすことになる。その役割を農業教育は持っている。

〔講演要旨〕

「北海道の工業教育の現状と将来」

雇用促進事業団 北海道職業能力開発短期大学校長

工業博士 大川 時夫 氏

「北海道の中等工業教育の歴史的展開」という題材において、北海道大学高等教育機能開発総合センター 小林甫先生とともに、研究を行うなかで、印象に残った問題について考える。

1. 理念と哲学

職業人として、わかる・できる・動ける人間の創造すなわち生産実習こそ真の技術・技能の伝習のプロセスであることを各地方の例をあげて検討してみる。

2. 直交する技術と技能

個人には、学習と生産を同時には行えない。

学問と実務は位相空間で一時独立である等々の問題があり、生産実習の減少傾向が見られる。また、日本人の技術・技能の直行性と偏狭性に問題があると考えられる。

3. 中等工業教育の過去と未来

世界経済のなかの日本の産（実）業教育の過去に果たした役割と現教育体制には問題点がある。

(1) 産業空洞化現象と工業人育成の将来性

(2) 世界経済のなかの日本の産（実）業教育の遅れ

4. 改善策として

(1) 産業オリエントから地域オリエント

(2) 40人学級から20人学級へ（少人数化教育）

(3) 教員の充実

以上、様々な講演が行われました。

〔研究発表〕

インターネットに対応した校内ネットワーク

滝川工業 広瀬 覚

情報活用能力の育成に向けて、本格的なインターネット環境の整備・校内ネットワークの構築・インターネットおよび校内ネットワークの教育活動・校務への活用の実現に向けた実践について、報告がされました。

1. 無線通信ネットワーク(Wireless LAN)によるインターネット接続

2. 電気製図における CADSUPER FX for Windows 導入の実践

稚内商工 嶋田 義久

稚内北星短大の実践協力依頼により、無線通信によるネットワーク構築という注目すべき実践例が報告されました。

また、平成9年3月に導入されたCADシステムの実践例・展開例などが報告されました。

資格取得の指導に取り組んでみて

旭川工業 梅内 親

本校電気科では、資格取得の補習を通して、分かる喜び・やってなし得た喜びなどの生徒の直接的な効果はもとより

教師自身の喜びとやる気が生徒によって、引き出せたことについての報告がされました。

〔講演要旨〕

「激動する日本経済」

—生活者の視点と経済教育の必要性—

北海道大学経済学部教授 井上 久志 氏

激動する日本経済や北海道経済について、生活者の視点と、それを確立するための経済教育又は商業教育がいかに必要かを中心にお話し申し上げたい。

最近、高校の先生方が中心になってまとめられた「新しい経済教育のすすめ」(清水書院)を拝読させていただきました。この本のはしがきにある「経済の基本理念や経済的な考え方を身に付ければ、複雑な経済問題への理解の手掛かりを得られる」には共感するものがありました。日本経済が激動期をむかえ、この状況はしばらく続くでしょう。これを乗り切っていくためには国民それぞれが問題意識を持つとともに、困難にぶつかっていく主体性が求められる。そのためには、経済教育をしっかりとやり、わかり易く教える必要がある。

〈経済を実感する授業〉

経済の基本概念は、学校で教える必要があると思うが、それをベースにして学生が問題意識を持って主体的に考える習慣を身につけさせなければならない。私の授業の最初は大根一本の値段が、先週と今週で変化した場合の需要曲線と供給曲線を考えさせることから始める。いきなり高度な理論的な体系の中に入っていきよりも、生活体験をベースにしたものから出発していく方が、より効果的に学習をして、経済学に興味を持たせることができると思っている。

経済学・商業教育で大事なことは、経済社会の出来事についての情報を理解し、一人一人の日々の生活のなかで起こることの背景を理解するための能力を向上させることである。そのためには基礎的な経済用語や概念を知識として持っておく必要があるだろう。そうした意味で最低限商業教育の現場でも、需要と供給曲線の意味を十分に理解させることが大切であろう。また同時に、学生に意志決定の主体となる力を、あるいは判断力を身に付けさせることである。そのためには具体的なものから抽象的なもの、あるいは現状分析から理論学習にステップを踏んで理論的に考える能力を少しでも高めることが経済教育にあたって大切なことであろう。

〈主体的な意志決定の力を養う〉

複雑化し激動する経済の流れに、ややもすると以前私達が習った経済学は時代遅れになってきている、という反省が台頭してきているのは事実である。日々の様々な生活実感や経済情報を、教材として生徒に教え、生徒自身がそれらを基に経済社会や生活が将来どう変化していくのかを考えさせることが、そして、習慣づけることが必要である。

学生は授業などで一方方向で学ばされることに慣れていて、自分で考えることや議論を交わすことが不得意である。

これからどうなっていくかを予想し、未来形で考えるノウハウを、理論としてだけでなく実践として教え、学生自身が考えることに慣れさせなければならない。

教育は一方通行ではなく、双方向のコミュニケーションである。学生達自身が一つの解答を見つけることが大切である。市場は必ず売り手と買い手があり、これを実感して行く教室内でのロールプレイングゲームは、市場を実感していく上でも有効な手段である。

〈激動する日本経済〉

現在の不況は、昭和恐慌以来の約70年振りの深刻な不況である。循環不況＋構造不況、実物不況＋金融不況、フロー不況＋ストック不況、自律不況＋人為不況である。しかし、豊かな時代のストックが残っていて国民に危機感を感じられない。国民や地域の人は、「もう崖っ淵に立っているんだ」という危機感を感じなければならない。

現代を生き抜くためには、過去が現在に至る延長線上に未来があるわけではないこと、事柄が上手く行っている時ほどその成功を支えているシナリオが崩れた時の戦略を様々に考えておく必要がある。時代を担う若人と共に、日本経済危機回避のシナリオを考えてゆきたいと思っている。

〔研究発表〕

第1分科会 ー教育課程ー

「社会の変化に対応した教育課程の編成」

ー併置校（普通科・商業科）における

教育課程の取り組みー

網走向陽 谷奥 憲夫

本校は、普通科（2）、商業科（2）、事務情報科（1）の併置校である。

教育課程の編成にあたっては、「地域に根差し、社会の変化に対応できる生徒の育成」を基本とし、日々の実践と研修を重ねている。

現在の教育課程に至るまでの経緯を説明しながら、今後の改善点や他校の実践等をお聞きしたい。

本校の教育課程編成は、平成5年度よりカリキュラム委員会を組織し検討を始めた。基本的な考えは、①新教育課程の理念の具体化（心の教育の充実、個性教育の推進、自己教育力の育成、文化・伝統の尊重と国際理解の推進）、②地域の要望に応えるための方法、③本校独自の特色あるカリキュラムの設定、であった。

また、それまでの商業科4間口を見直し、「商業」、「会計」、「情報」の3コース制導入の検討も始めた。これは2、3年生において選択科目を増やす方向で進められたが、平成6年度は実現されなかった。

平成6年度に入り、前年度の教育課程を土台にし再検討を試みたが、事務情報科への学科転換や間口減と言う方向の中で見直しを迫られた。

その結果、平成7年度の教育課程の変更点は、①商業科におけるコース制導入の廃止、①商業科におけるコース制導入の廃止、②コース制に変わり選択科目の増加、③土曜日2回休業に伴う時間割編成の工夫があげられる。

しかし、このままのカリキュラムでは、①週5日制への対応、②間口減による教員定数減への対応など、現実的な課題も考慮しなければならなかった。

これらの問題点を考慮し、平成8年度の教員過程の特徴を、①週当たりの授業時数を30時間から28時間に減少、②土曜日を弾力的に運用（学校行事等でつぶれた授業の補充等）、③選択科目の選択肢を可能な限り取り入れる等があげられた。

特に②における特別時間割は、「わかりづらい」と言う批判もあったが、行事予定に時間割を組み込むなどして解消している。

しかし、この課題ではまだ各科の特徴が十分に出されておらず、検討の余地がある。

今後の取り組みとして、①開かれた学校として家庭・地域との連携強化、②教育方法や授業内容改善のための研修（教科指導、生徒指導、学校経営指導、道路指導、部活動指導）、③学校環境の整備、④礼儀作法等のマナー育成等があげられる。

まとめとして、地域に根差した特色ある学校を作るためには、網走市が計画している街作りの構想も頭に入れ、入学した生徒が誇りを持つことのできる学校を作ることである。

そのためには、校内研修の充実をはかり、教員自身も自己の資質向上を目指し、多様化する生徒に対応すべく意識改革をしなくてはいけないと思う。

第2分科会 ーO A 機器関連科目ー

「本校におけるパソコンの利用法について」

～インターネットの活用について～

中標津 石川 智寛・鶴間 伸一・高原 修

本校は、普通科と商業に関する学科の併置校であり、旧来から両学科にわたって情報処理に関する授業展開を進めてきた。現在、校内に所有するパソコンは66台で、総合実践室にLAN、電算室の20台のパソコンについては、LANとインターネットが配備されている。

特に今年度、商業科1間口を事務情報科に学科転換したことにより施設設備面での拡充が図れたことと同時に、情報処理ネットワーク形成推進事業の試行校の指定を受け、インターネットに関する研究を推進する機会を与えられた。以下、本校でのインターネット活用状況について発表する。

「本校におけるインターネットの活用状況」

1. 授業での活用

1学年商業科・事務情報科の「情報処理」においては、インターネット上での情報収集の基本操作の習得と、ネット内でのネチケット及びプライバシー・著作権保護の重要性を認識させることをねらいとして授業展開している。殆どの生徒が、インターネットを初めて体験したという状況であったが、実際のホームページの見てみると、アンケートや意見を求める入力ホームや、ネット上で商品を購入するための申し込みの入力ホームが多くあり、一方的に情報を見るだけでなく自ら情報を発信することが可能であるこ

とに自然と気付いた点が興味深かった。

2学年商業科選択科目「文書処理」においては、インターネットに関する授業をハイパーテキストの特性を理解させ、情報発信能力の基礎を養うことをねらいとして2学期に4時間行った。ホームページ作成の際には、HTML (Hyper Text Markup Language) を用いたが、英語の苦手な生徒についても、数種類の基本的なタグを覚えることによって、それなりのホームページを作成していた。実際に自分が作成した命令に従って、コンピュータが即座に反応し、処理結果に表示してくれるところに魅入られた生徒が数多く見られた。

3年生商業科の「課題研究」においては、調査研究部門での情報収集のための活用に留まってしまったが、調査範囲が、町内、管内にとどまらず日本のみならず諸外国へと広がりを見せた。

2. 授業以外での活用

①生徒会行事としての「文化的行事」の一講座として「インターネット教室」を設けた。40名の参加者をホームページ作りとネットサーフィンの2部形式として1時間交代で実施した。ホームページ作りでは、サンプルのホームページを直す程度の内容であったが、各自が集中して作業に取り組む、関心の高さが伺えた。

②本校で開催された初任者研修の際に、ネットワークの概念の説明、ネットサーフィンによる情報検索等を実施した。

③進路指導における就職希望生徒の職場調査や進学希望者の志望校の下調べ、また見学旅行の自主研修に関する調査など各種の情報収集のために活用した。

④コンピュータに興味のある男子生徒会役員3名が中心となり、「北海道生徒会交流」のメーリングリストなり、メール交換を開始した。メールの即時性を体験するといった段階までには至らなかったが、今後は、生徒の自主性を尊重しつつ、より活発な情報交換や討論が行えるよう働きかけたい。

3. インターネット活用上の問題点

以上実際にインターネットを利用した結果、次のような問題点が挙げられる。

①教師側の研修不足やスタックした時の対応などネットワークに対する知識が不足している。

②メモリー、ハードディスクの増設、各種ソフトの整備など環境整備が必要である。

③サーバの管理、運用規定など、インターネットを管理する上でのソフトが必要である。

④今後、情報を発信する機会が多くなることを考えると生徒に対する利用上のルールマナーの周知徹底が必要である。

インターネットが普及している理由には、情報収集の手段のみならず、情報を発信できるという側面がある。今後インターネットを利用する場合には、獲得した情報をどう活用するかといった情報活用能力と、情報をどう表現するかといったプレゼンテーション能力が必要となると思われる。

単に基本操作に留まらず、こうした能力の育成が重要であり、そのために努力したいと考える。

第3分科会 進路指導

本校における進路指導の取り組み

旭川商業 入江 潔

本校においても進学志向の高まりや進路希望の内容が多様多様の中で、進路指導部を中心としながら、各学年学級担任の中に1名の進路指導担当教員を、また、進学講習等にも対応できるように担任は構成されている。進路指導の全体及び就職者の具体的な対策としては、以下に挙げる通りである。「進路オリエンテーション」では、就職・進学・看護・公務員等の将来の進路に対する意識付けを行うよう、1学年から年1回実施し、3学年では、進路を踏まえての学習面・生活面・職業観・進路決定の留意事項を中心に年3回実施している。「就職座談会」では、市内各企業の実業人と3学年の座談会を、「就職講話」では、地域の著名企業人(卒業生)を招聘し実施している。「グループ面接指導」では、全教職員の協力で3年生を対象に実施し、「個人面接指導」では校内選考後受験企業ごとに実施している。「就職報告会」では、進学・就職の内定者が1・2学年の教室で発表をし、「進路指導」では、HR担任が中心に実施し、進路指導部においては、進学者、就職希望者、遠隔地出身者等を対象に随時実施している。「作文テスト」では、各学年とも普段から十分に練習させ、業者の作文テストを2回実施している。「就職模試」では、問題集を全員購入させ、その中から出題している。

進学者指導においては、進学・公務員・看護の希望者の入試に対する基礎学力の養成を目的として、1学年から進学補習開放講座を学年付きの普通科教員が長期休業中や早朝や放課後利用して計画的に実施し、進路資料室を放課後等開放し、資料や相談また自習室として普通科教員の常駐で活用して居る。

以上のように、本校での進路指導は従来からの商業高校卒業イコール就職という既成概念からの脱却を図りながら、地域から期待されて地域で活躍できる有能な職業人の育成という役割を目指した取り組みを展開している。

〔助言〕

美唄南高校教頭 福井 弘

入江先生の発表から、旭川商業高校の就職率の良さは、地域やOBの支えはもとより、きめ細やかな進路指導の成果であることが伺えた。

また、高校生の進路決定においては、生徒一人一人の適性に考慮した進路指導が必要であり、教員自身も社会に目を向けていかなければならない。

中川商業高校校長 工藤 昭男

求人への動向は、見通しが立たない段階にきているので、早期の職場開拓、企業訪問、求人情報の入手等が必要である。

また、面接においては、日常の積み重ねが大切であり、生徒だけでなく、教員自身も正しい言葉遣いで接しなければならぬ。

生徒自身の進路実現を叶えるためにも、今回の旭川商業高校のレポートを参考にしながら、各学校で取り組んでい

ただきたい。

水産部会

〔講演要旨〕

「水産教育を取りまく今日的な課題」

文部省初等中等教育局 視学官 中谷 三男 氏
教育改革の中、学校教育の現状と課題について見ると、少子化に伴う生徒減少、新たな視点に立った教育を考えて行かなければならない。

日本中を驚かせたあの神戸の事件は「心をどう育てるか」という原点に帰った新しい問題として提起された。中教審でも21世紀に向けての教育の在り方として、「心の教育」の重要性が強調されている。いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決する資質や能力、また自ら律しつつ他人とも協調し、他人を思いやる優しい心など、豊かな人間性を育むなど「生きる力」とし、教育の在り方の基本的な方向として求めていくことが重要である。

専門校校における教育の改善・充実の基本的な方向では、2つの観点から諮問され、(1)時代の要請に応える人材養成、(2)1人1人の個性を生かす教育があげられ、更には、新たな教科・科目の設定、専門高校の役割、その在り方、産業界と地域との連携の在り方、主体的な進路選択ができるような進路選択の幅の拡大の4つの事項についての検討が重要である。

21世紀の水産教育への改善の方向では、社会や産業構造の変化等に伴い、また、国際化が進む中で水産業や海洋をどう捉えるか。それに対して、水産教育はどうあるべきかのビジョンの構築が必要である。

教科「水産」では、水産技術の高度化、海洋環境問題、海洋性レクリエーションなど海を取り巻く産業の変化等、水産物流通や人的交流等の国際化や情報科への対応、通信技術の進展などに応じた教育内容の改善を図ることが重要である。

21世紀に向けて、舵取りを間違えることなく、地域や業界の期待に応えた水産教育の充実を図り、水産業や海洋における新時代を担うたくましい人材を育成する水産教育の推進が今後の大きな課題である。

〔研究発表〕

新しい時代における水産教育の今日的課題と

その対応はどうあるべきか

小樽水産 長尾 英一

現在進められている国の諸改革にともない、学校教育の

あり方が抜本的に大きく変化することが予想される。また、経済情勢の変化により進路指導の見直しも必要になり、その対応によっては職業高校の存立に直接関わる問題に発展しかねない。

さて、今後の水産教育を考えるにあたって理産振の中間まとめは極めて重要な方向性を示している。ここでは、「専門性の基礎・基本の重視」「多様な進路希望をもつ生徒への対応」などがあげられている。これはカリキュラムの見直しによる脱資格教育への移行、大学進学教育の充実などが図られなければならないことを意味している。さらに、地域社会の要請に応じた学校のあり方を各学校が模索し、時代に即応したものに革新しようとする取り組みが不可欠となる。したがって、必要とされる知識、技術が即カリキュラムに反映するしくみの構築等、各学校の主体的な取り組みがこれまで以上に求められる。そして、今後の水産教育を展望するとき、道民や産業界、生徒や地域のニーズの動向を適切に見極め、時代の変化に柔軟に対応することが何よりも重要である。

新教育課程における「課題研究」はいかにあるべきか

函館水産 西村 紀夫

自ら課題を設定し、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度を育てることを目標とする「課題研究」が必修科目として導入された。履修については3年生で2単位を通年で時間割に組み入れ、「総合実習」2単位と連続して4時間繰きの時間とした。実施にあたり1学期末にオリエンテーション、2学期始めに希望調査を行い、テーマを決定した。内容については、今年度は昨年度の反省に基づき「調査・実験・研究」と「作品製作」の2つとした。現場実習は受け入れ先や安全性の問題で実施しない。資格取得は本来「課題研究」になじまず、また時間の関係で無理がある。

実施上の問題点として、次の点があげられた。

- ① 「総合実習」の絡みで「課題研究」単独で実施する回数が少なかった。
- ② 担当する教員に相当な負担がかかり、個々の研修が求められる。
- ③ 担当教員間で評価に個人差が出ないようにする。
- ④ 教材不足が目立つ。

また、今後の改善点として、次の点が検討された。

- ① 「総合実習」との関連を再検討する。
- ② 研究内容を易しいものにし、テーマ選定・計画の段階で充分時間をとるようにする。
- ③ 指導する生徒数は教員1名当たり5～6名を上限とする。